法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

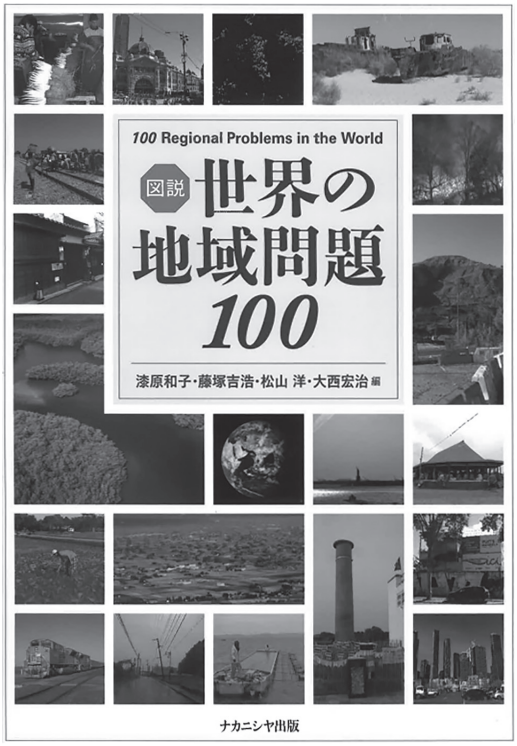
<文献紹介>漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編『図説　世界の地域問題100』

KATO, Yoshio / 加藤, 美雄

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理
(巻 / Volume)
55
(開始ページ / Start Page)
87
(終了ページ / End Page)
88
(発行年 / Year)
2023-03-20

【文献紹介】

漆原 和子・藤塚 吉浩・松山 洋・大西 宏治 編（2021 年 12 月発行）
『図説　世界の地域問題 100』
ナカニシヤ出版，219 p，定価 2,700 円（＋税）



本書は漆原他（2007）（以下，前作とする）の改訂版で，前作同様に世界の多くの地域問題を理解し，解決のために出版された．内容は全ての項目が見開きで完結しているので大変読みやすく，更に，2 ページに収まっているにもかかわらずかなり充実している．文献紹介にあたり，本書は他の書籍や新聞などで概略が紹介されているので，本稿では限られた紙幅であるが，本書に記載しているすべての地域課題について触れる．以下，掲載されている順に各地域の関連する項目をまとめて説明する（カッコ内は取り上げた地域問題）．

・総論（7）

本書の全体を説明したのち前作と同じ 12 テーマについては，進捗状況を述べ，クラウドソース型ウェブ地図の使用や，オープンデータの活用，及び主題図の作成を解説している．更に，高等学校で開始された「地理総合」の内容と特徴は，関係者にはかなり参考になる．

・世界（8）

地震災害と危険度評価の現状，及び気候の変化等を解説し，更に地球温暖化の原因と影響，及び世界の氷河の現状を説明している．海洋に関してはエルニーニョ・ラニーニャ現象の予測精度の向上と地球温暖化が深層循環にまで影響していることに言及している．食糧問題では，人口増加による課題，ジオパークについては，地域の役割を指摘している．

・オセアニア（5）

海面上昇によるツバルの課題を取り上げ，サモアは独自の伝統・慣習を維持することを検討している．オーストラリアでは，人口密集地での森林火災が多いことと長距離飛行機通勤を行なう鉱山労働者の問題点，及び人口増が著しいメルボルンにおけるコンパクトシティが課題である．

・アフリカ（6）

全域の問題としてプラスチックごみ対策に苦慮しており，サヘルの砂漠化では，農牧業のあり方に言及している．ナイジェリアでは，首都機能の移転による企業配置を考察し，東アフリカ諸国では，生存基盤の維持について検討している．モザンビークでは南北格差が著しく，南アフリカではネオアパルトヘイトの克服が急務である．

・ラテンアメリカ（7）

パタゴニアにおいては氷原の動向を注視しており，ウルグアイの農業では，国内政策が課題となっている．アマゾンの森林喪失は，実行力のある環境政策が求められ，ペルーでは世界遺産の保存・修復が問題となっている．ジャマイカではコーヒーと大麻の栽培にみられる国の事情は興味深く，ユカタン半島では，マングローブの回復について報告している．

・アングロアメリカ（7）

アメリカにおいては，貧しい地域ほど肥満傾向がみられ，また，ハワイでは移民と戦争の課題を提起し，メキシコとの国境問題では合法と不法の入国を考察している．更にオガララ帯水層の地下水位面の動向に注視し，ニューヨークでは住宅事情の新たな問題が発生している．カナダでは，フランス語の公用語の動向に注目し，グリーンランド氷床は，内陸と沿岸の相違を監視している．

・ヨーロッパ（10）

ロンドンでは，インナーシティー問題，パリは，都市開発による格差について，それぞれ解決が求められる．フランスのリールでは再生可能エネルギーなどへの切替えが試みられ，オランダは，循環型農業への転換を図っている．ドイツでは，外国軍事基地跡地の施設利用克服が課題であり，ヨーロッパでは，地理的表

示によるブランド化が促進され，アルプスのスキー場では地球温暖化により縮小や廃止に追い込まれている．東ヨーロッパの「黒い三角地帯」では，自然保護の対策を行なっており，ヴルタヴァ川沿岸では，近年の洪水被害で開発計画の見直しが迫られている．ブタペストでは，廃墟地の再生による建物の保全が重要である．

・アジア（22）

西シベリアでは地球温暖化により極端気象が発生し，また，永久凍土層の融解が急速に進んでいる．ヒマラヤ氷河の融解に伴う氷河湖決壊は，大災害を引き起こし，アラル海では，植林などの対策と地下資源に活路を見いだしている．ピナツボ火山は大噴火後の火山泥流により植生が変化し，ベトナム北部のマングローブ林の植林事業においては，今後の動向に注視している．ジャワ島では，脱農と高齢化などの問題解決が必要であり，モンゴルでは家畜が減少し遊牧の将来が懸念される．中央アジアでは，観光狩猟の法的な対策による保護が課題となっており，南シナ海では毒による漁獲について，政策などの対策が急がれ，台湾においては石干見の保存活動が必要である．

ドバイは今後の都市開発が重要であり，ブータンでは，急速な都市化の進展に伴う問題が顕在化している．また，韓国ソウルの伝統的な住宅街では，保存と観光客対策が必要であり，マレー半島では，衰退した漁村の復活を模索している．ネパールは，仏教聖地への訪問者の急増により利害の衝突の場となっており，インドでは，すべての面でジェンダー格差が根強く残っている．ロヒンギャ難民は，各国の支援が急務であり，ベトナムに居住している韓国人は，就業目的の移住が増加している．中国は，大気汚染物質の監視が重要であり，また，廃棄物の適正な処理が必要である．アジア・太平洋地域の米軍基地は，地元住民との軋轢が発生している．

・日本（28）

地震大国日本では，被害の軽減のための法規制と東日本大震災における原子力災害に備えた法整備が重要で，また，海底活断層の特性の把握と火山防災体制の強化が必要である．水害に関して，愛媛県肱川流域は，想定にとらわれない避難行動が重要であり，首都圏についても地域ごとのリスクを把握することが必要である．一方，滋賀県の百瀬川流域は地域住民の水利用による結びつきの強化を模索しており，黒部川扇状地の農業用水路は転落事故への取組が重要である．

産業面においては，日本の耕作放棄地の解消を検討しており，また，南大東島のサトウキビ栽培では，土地と水問題についての保全が重要であり，九十九里浜は海岸浸食により衰退した海浜観光業の対策が求められる．瀬戸内工業地帯は，グローバル経済との関係性が希薄であり，富山県砺波市の散村は屋敷森などの景観が失われており，熊本では地震によるサプライチェーンの途絶の対策として代替地での生産を指摘している．

都市，人口関連では，日本の相対的貧困率は地域の失業率が大きく関わっており，三陸地域では，東日本大震災により自市町村内の移動で市街地拡大などが課題となっている．山形県の飛島は人口減が続いているため行政の対応が急務であり，原宿では，商店街が若者向けなどに代わったため，地域住民の生活に影響を与えている．京都市の町家ゲストハウスはCOVID-19などで利用が激減したために修復再利用を模索している．コンパクトシティ化を進めてきた富山市では，鉄道沿線以外でも人口増がみられるようになり，高岡市は外国人が居住し多様性の許容が進んでいる．北九州市八幡東区では，住宅の無居住化が進行している．

動植物に関しては，宿毛市におけるイノシシの駆除方法の検討，岩手県雫石町ではイノシシ被害対策のために自然環境の管理，盛岡市ではクマが出にくい環境を，それぞれ地域で取組んでいる．また，タンポポの在来種の保護，保全のためには生育環境を維持することが重要である．

環境破壊について，兵庫県の瀬戸内海では「豊かな海」を取り戻すため自治体，市民などで取組み，沖縄の円錐カルストは，企業の開発計画を住民運動により中止した好事例である．

以上，本書を概観したが，すべての項目の後に掲載されている文献一覧は，更に詳しく調べたい読者には，大変役に立つ．また，すべての地域問題について前述のように２ページに凝縮されているが，内容は最新の資料を使用し，図や写真も効果的に配置されているため，この紙幅に収めるための筆者の苦労が偲ばれる．

本書は地理学者とその分野を超えて64名にもおよぶ著名な研究者により執筆されており，他の書籍や新聞でも紹介され称賛されている．内容も問題点の指摘だけでなく解決策も明示され，更に今後の問題も提起しているため世界の新たな地域課題を認識することができ，そのような問題を理解するうちに更なる興味も惹起してくる．本書の前書きには学生や地理学担当教員を想定した読者と記載してあるが，これだけ世界の多くの地域問題が網羅されているので，法政大学地理学会の会員には大変参考になる書籍である．

（加藤美雄）